

## 経営のヒント134 「リーダー」という言葉の真の意味

### リーダーとは？

「リーダー」この言葉は、経営とマネジメントの教科書には、かならず出てくる。そして、多くの場合、この言葉は「指導者」と訳される。多くの人々を指導し、人々が集まる組織を統率していく人物」の意味です。

しかし、この日本という国において、この言葉の意味は、欧米とは違う。この「リーダー」という言葉の本当の意味は、違います。それは、「組織を率いる人間」のことではない。それは、「山に登り続ける人間」のことです。

それは、「人間成長という山の頂に向かって登り続ける人物」のことです。

誰かを指導しようと思うわけでもない。  
組織を統率しようと思うわけでもない。  
ただ、一人の人間として、「人間成長」という山の頂に向かって登り続ける。それが、本当の「リーダー」の定義です。

そして、その人物の周りに人々が集まってくるのは、結果にすぎない。人々が集まってくることを求めて、山に登っているわけではない。自分に与えられた道を、精一杯に登っていく。力の限り登っていく。すると、気がつけば、なぜか、同じ山道を一緒に登る人々がいる。その方々とのご縁を大切に、時に、励まし合いながら、山道を登り続ける。ただ、誰よりも深く、その山道を登り続けてみたいという願いを持っている。それが、結果として「リーダー」と呼ばれるときもある。しかし、「リーダー」と呼ばれるために、山に登っているわけではない。この日本という国には、そうした逆説的な「リーダー観」がある。深みある「リーダー観」がある。

参考著書・・・なぜ、我々はマネジメントの道を歩むのか」田坂広志 PHP 研究所 179~181pより

### <経営のヒント>

この文章は田坂広志氏の著書にありました。

私はこのソフィアバンクの代表である田坂氏のファンであり、彼の著書は多く読んでおります。

簡単な言葉ですが、意味は深いですね。

難しいことをいかに簡単に伝えることが出来るか？それが出来る人の条件です！概念創造能力です！

反対に学者さんは、いかに難しい言葉を使って難しく説明するか？それが自己本位の防衛本能！

日本にはいい言葉があります！

・・・同行」・・・縁あって、同じ道を行く人々

何かの縁、かけがえのない人生の時間を共にしている、その出逢いに感謝している。

共に歩むその時期に、互いに切磋琢磨して成長したいと深く願っている。

それが真のリーダーなのかもしれません。